

寄贈資料			2018.1.1～12.31
2018			
3. 1	大原美貴和様:1973年大学卒業EPレコード他1点	6. 6	青柳信五様:有田忠郎資料11箱
3. 13	金丸英子様:枝光泉関係資料2箱	6. 12	堀内久美子様:西南学院OBオーケストラ資料28点
5. 9	吉田雅俊様:『教会学校』他1点	8. 30	松岡正樹様:絵はがき「宣教師クラークの家族」
5. 11	小林洋一様:『主はわが牧者』	10. 3	原田聡様:大学卒業アルバム1965
5. 16	宮崎宗親様:中学校平和教育の記録他5点	10. 17	小林洋一様:『二十年の歩みを感じて』他3点
5. 16	尾崎啓三様:絵画(尾崎恵子作)他尾崎家資料3箱	10. 24	岩田昶様:『雑学記』
5. 23	高良研一様:『学校法人関係者名鑑』		

活動記録			2018.1.1～12.31
2018			
1. 10	会議:第103回監修合同委員会(ー第210回、12.26)	7. 10	複写:パイプオルガン画像他3点
1. 11	閲覧:西南学院旧本館建築仕様書	7. 12	複写:西南学院航空写真
1. 18	複写:福岡神学校開校式	7. 12	複写:西南学院旧本館のレンガ積み定礎式画像
1. 30	照会:大学構内の戦争遺蹟について	7. 17	複写:学院関係戦没者一覧
2. 8	複写:大学卒業記念アルバム1956	7. 31	複写:宣教師引揚げ送別会画像他2枚
2. 9	複写:舞鶴幼稚園100周年座談会画像他3点	7. 31	複写:『月報』中高関係者寄稿分(144点)、中学校関係写真(56点)
2. 16	複写:学生運動画像他5点	7. 31	複写:ランキン・チャペル画像他1点
3. 1	刊行:西南学院史資料センター通信「一粒の麦」創刊	7. 31	研修:全国大学史資料協議会第2回西日本部会(京都市学校歴史博物館)
3. 1	展示:企画展「戦時下の西南学院と平和宣言」開催(ー5/19)	8. 7	会議:第59回百年史編纂委員会
3. 12	原稿執筆:『SEINAN Spirit』204号「メモリアルコラム」	8. 9	複写:『古事記』テキスト他2点
3. 20	校正:『赤煉瓦通信』(学院広報誌)の「学院メモリアル」	8. 30	来訪:近畿大学建学史料室
3. 27	協力:百道会50周年記念誌	9. 4	複写:新入生学費一覧表(中学校、高校)
3. 28	会議:2017年度第3回資料センター運営委員会	9. 5	貸出:『古事記』テキスト
3. 29	複写:『CHARLES KELSEY DOZIER of Japan』	9. 19	複写:西南学院旧本館画像
4. 4	提供:西新の街他83点	9. 20	複写:西新町電車通り画像他1点
4. 16	閲覧:尾崎恵子絵画7点	9. 21	原稿執筆:『SEINAN Spirit』206号「メモリアルコラム」
4. 24	複写:ヘレン・ケラー関連画像他5点	9. 25	閲覧:福岡市都市景観賞(賞状、盾)
5. 1	照会:柔道部について	9. 25	複写:『西南学院大学新聞』4点
5. 1	会議:第57回百年史編纂委員会	9. 27	複写:『西南新聞』5点
5. 21	複写:高等学部学生教員集合写真	9. 29	協力:大学ホームカミングデー「松の緑 青春の色」
5. 22	研修:全国大学史資料協議会第1回西日本部会(大阪女学院大学)	10. 1	会議:第60回百年史編纂委員会
5. 25	複写:『西南スポーツ』第65号	10. 10	研修:全国大学史資料協議会全国研究会(ー12日、九州大学)
5. 25	協力:応援指導部応援団画像5点	10. 18	会議:2018年度第2回資料センター運営委員会
5. 25	共催:尾崎恵子作品展(ー6/5)	10. 19	複写:大学卒業アルバム画像2点
5. 28	複写:西南学院旧本館定礎式画像他17点	11. 5	会議:第61回百年史編纂委員会
5. 30	照会:1955年の高校の資料について	11. 16	閲覧:体育会総務委員会機関誌『防塁』
5. 31	会議:2018年度第1回資料センター運営委員会	11. 21	協力:応援指導部応援団関連画像10点
6. 1	閲覧:「菊の紋章」「陶器の校章」	11. 26	原稿執筆:『SEINAN Spirit』207号「メモリアルコラム」
6. 4	複写:西南学院スライド他	11. 27	複写:『西南学院大学広報』第102号
6. 6	閲覧:船越ゼミ「千舟会会報」	11. 30	閲覧:「西南学院大学広報」第102、103号
6. 8	複写:高等学部応援団画像他1点	12. 6	閲覧:大学卒業記念アルバム1997
6. 22	原稿執筆:『SEINAN Spirit』205号「メモリアルコラム」	12. 17	会議:第62回百年史編纂委員会
6. 26	会議:第58回百年史編纂委員会		
7. 2	貸出:企画展「戦時下の西南学院と平和宣言」展示パネル		

資料センターのご利用について	
西南学院の歴史に関する資料の閲覧をご希望の方は、事前に当センターへご連絡ください。資料の閲覧は、当センター内とし、原則として館外貸出はいたしません。また、資料を写真撮影・複写される場合には、許可が必要です。論文・図書・新聞・雑誌などに掲載(転載)または引用される場合にも許可が必要です。 TEL:092-823-3920 e-mail: swarc@seinan-gu.ac.jp	平日(月～金) 9:00～17:00(最終入室16:30) 夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、年末年始休暇[12/28～1/5]を除く

学院史資料センター運営委員会		
委員長	G.W.パークレー(学院史資料センター長、院長)	事務局
委員	後藤 新治(大学博物館長)	篠田 裕俊・世戸口 尚英
	古田 雅憲(大学図書館長)	高松 千博・大石 里紗
	金丸 英子(大学神学部教授)	
	瓜生 和也(中学校・高等学校教諭)	
	高口 沙耶香(小学校教諭)	編集後記
	檜崎 賢(舞鶴幼稚園主任教諭)	待望の「百年史」が発刊された。今回の企画展は、その編集作業により発見された史実を基に展示しているので、ぜひ、足を運んでもらいたい。(世)
	土田 珠紀(早緑子供の園主任保育士)	
	藤丸 孝幸(総合企画部長)	
	前田 誠史(学院史資料センター事務室長)	

西南学院史資料センター通信
一粒の麦
2019 NO. 2
発行者: 西南学院史資料センター 発行日: 2019年3月11日
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92 TEL:092-823-3920 FAX:092-823-3184 e-mail: swarc@seinan-gu.ac.jp http://www.seinan-gakuin.jp/archive.html

西南学院史資料センター通信
一粒の麦
Seinan Gakuin Archives Newsletter



大学申請書と大学設立趣意書

Contents

『西南学院百年史』発刊なる！	2
西南学院百年史監修委員長 小林洋一	
2019年企画展	2
「－『西南学院百年史』刊行記念－『百年史』編纂で発見された史実」	
資料センター所蔵資料の紹介(1)	3
「西南学院大学設立趣意書」	
寄贈資料・活動記録	4
資料センターのご利用について	4

I

学院創立100周年記念事業の一つである『西南学院百年史』（以下「百年史」）が、この3月、予定より1年10ヵ月遅れとなりましたが、ようやく刊行の運びとなりました。この百年史は、「通史編」（総論・各論）と「資料編」の2巻からなり、いずれも800頁を超える大冊です。

百年史刊行のための監修委員会を組織し、第1回の監修委員会を開催したのは、今から5年前、2014年5月7日のことでした。監修委員会は週2回の会合を原則としましたが、昨年の後半は、遅れを挽回するために、会合を週3回に、時間も通常の午前10時～午後3時を午後4時に延長しました。その会合も、この1月、338回をもって終了となりました。

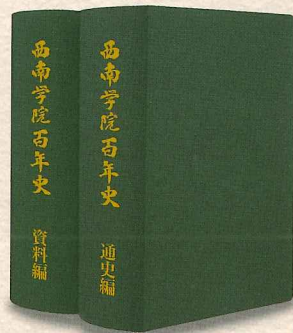
当初、監修委員会は学院本館2階の小会議室で行っていましたが、2016年の西南学院百年館（松緑館）竣工に伴い、その1階会議室に会合の場を移しました。これにより、同館内にある学院史資料センターの資料参照が格段に容易となりました。

100年前の学院の成り立ちから始まり、「西南よ、キリストに忠実なれ」の学院モットーの解釈と具現化、創立当初の男子中学校から、今や保育所・幼稚園・小学校・中高・大学・大学院と、一大学園に発展した学院の歴史を記述することは一大事業と言えます。この大事業遂行のために、原稿執筆者、学院百年史編纂委員、学院史資料センター、大日本印刷株式会社を始め、実に多くの方々のご協力とご支援がありました。関係者に、この場を借りて改めて心からお礼を申し上げます。

西南学院は百年史発刊をもって、二つの年史（正史）を手にすることになります。もう一つの年史は、百年史編纂にあたり、最高の参照資料となった『西南学院七十年史 上下』（全2,225頁、以下「七十年史」）です。百年史は、七十年史にはない、その後の30年の学院史を新たに著したことはもちろんのことですが、それ以前の70年については、七十年史を可能な限り、1次資料に基づいて批判的に検証して継承することを基本方針としました。

批判的に学院史を検証するという課題は、当然のことながら、学院の光の部分だけでなく、影の部分も検証することを意味します。学院における最大の影の部分は、やはり先の大戦における戦争協力と、それに対する戦後長きにわたる沈黙ではないでしょうか。学院は、創立100周年を機に、難題の戦争責任・戦後責任の告白に取り組み、これを平和宣言として公表しました。百年史は、この画期を収録するという幸運に恵まれました。

学院の記録に、戦前、戦中の軍関係および軍国主義的諸物品が、戦後、処分、焼却された、とありました。たとえば、焼却が中央からの指示であったとしてもかえすがえすも残念なことでした。このようなことは2度と起こってはならないことですが、資料保存にあたっては「不都合な真実は隠すのではなく残す」という考えが徹底されることを願わずにはられません。



「通史編」、「資料編」の2巻で構成する『西南学院百年史』

II

西南学院の校章の SWのモノグラム（組み合わせ文字）は、創立者C.K.ドージャーの発案によるものですが、最初は、Southwestern Academy のS.W.A.を組み合わせたものでした。しかし、現在は、Aのない、SWの組み合わせとなっています。

このSWに関して、百年史各論の中学校・高等学校の「学校生活」の項の原稿には、中高の体育大会が「2003年度からは、百道浜校地で開催となり、西南女学院で行われていた『グラウンドマーチ』を取り入れ、SWの人文字をつくりあげた」とありました。

監修者全員は、「グラウンドマーチ」を、運動場で行うのでground marchだと理解していました。しかし、最終校正の段階で、たまたま一人の委員より、この「グラウンドマーチ」の「グラウンド」の綴りは、このままでよいのか、それとも「ウ」を除いた「グランド」とすべきか、と問いが出されました。その時、そもそもグラウンドマーチなるものが、英語にあるのかが問題となり、英語辞書を調べたところ、そのような英語はないことがわかりました。そこで、そのマーチをやっていたという西南女学院の『西南女学院六十年の歩み』を参照したところ、それが、grand march（「グランドマーチ」）であることを見つけました。これは、「全員による大行進」という意味で、英語辞典にも掲載されていました。

すんでのところで過ちを見逃ごすところでした。このような誤記を最終段階で見つけますと、他にも見逃ごしているものがあるのではないのかと不安にさせられます。正誤表を出さないで済むことを願うのみです。

監修委員会は、百年史を手にする読者の皆さんが、学院がどのようにして今日あり、その歴史をどのように刻んできたのかを知ることを通して、学院に対して一層の愛着と、熱く、しかし醒めてもいる愛校心を培って欲しいと願っています。

（西南学院大学名誉教授）

「西南学院大学設立趣意書」

1. 大学設立を断念

西南学院大学は、1949年4月に開学し、2019年に開学70周年を迎えた。しかし、大学の設立構想は、1934年、米国南部バプテスト連盟外国伝道局（以下「ミッションボード」）総主事C.E.マドレーなどと、学院の将来計画等について懇談・協議の中で、取り上げられたことまで遡る。

学院は、大学設立方針を固め、1937年7月、ヴォーリズ建築事務所に校舎俯瞰図および配置図を依頼し、「SEINAN GAKUIN BAPTIST UNIVERSITY」（西南学院バプテスト大学）の構想を明らかにした。そして、1937年から1939年にかけて、早良郡田隈村干隈の高台約132,000㎡（4万坪）を買収した。しかし、日米関係の悪化に伴い、大学設立は中止を余儀なくされた。

1945年8月、戦争が終結すると、翌年、学院は、西南学院経済専門学校を西南学院専門学校と改称して、英文科を復活させた。また、1947年には、神学科も復活させ、戦前の状態に戻した。

2. 大学設立に向けて

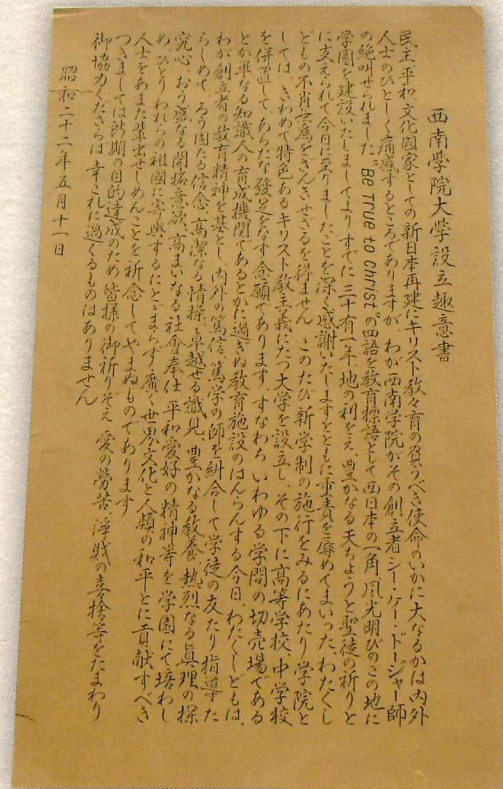
1947年4月、教育基本法・学校教育法の施行によって、旧制中学部は、新制の中学校（1947年）と高等学校（1948年）となった。学院は、1947年2月、大学設立準備委員会を設け、5月11日の創立記念日に、次の「大学設立趣意書」を関係者に配布した。

このたび新学制の施行をみるにあたり、学院としては、きわめて特色あるキリスト教主義にたつ大学を設立し、その下に高等学校、中学校を併置して、あらたな発足をなす念願であります。すなわち、いわゆる学問の切売場であるとか単なる知識人の育成機関であるとかに過ぎぬ教育施設のはんらんする今日、わたくしどもは、わが創立者の教育精神を基とし、〈中略〉ひとりわれらの祖国に寄与するにとどまらず、広く世界文化と人類の和平とに貢献すべき人士を、あまた輩出せしめんことを祈念してやまぬものであります。

大学の具体的構想は、第1期に、法文系統（神学・英文・国文・経済・家政・音楽・保育・社会・哲学・法律・教育・商業・政治等）を、第2期に理科系統を予定していた。また、専門学校名誉校長で福岡県知事の杉本勝次は、大学設立に向けて、「ビックスクールたらずして、グッドスクールたれ」とのメッセージを寄せた（『西南学院大学新聞』、第65号、1947.9.15）。

3. 募金活動とミッションボードからの援助

大学設立のためには、1億円の資金が必要であった。学院は、ミッションボードに5,000万円の資金援助を要請するとともに、学内外に対して募金運動を展開した。1947年6月、学院同窓会、商業学校保護者会、中学部父兄会、専門学校後援会が中心となって、大学設立後援会を設置し、寄付を呼びかけた。この募金運動に、学生たちは、アルバイトなどで協力した。募金額は目標の5,000万円には大きく届かなかったが、幸いミッションボードから、1948年度分約35,000ドル、1949年度分約5万ドルが、クリスマス献金として寄付されることになり、資金面の見通しもついた。また、施設



大学設立趣意書

面では、1948年6月に第6校舎の新築、9月に自然科学関係の設備として高校理科教室の増改築、1949年2月に現在の大学西キャンパス北側を取得した。

4. 新学制による大学設立

1948年7月、大学の設置申請を行った。当初の計画では、米国における大学のリベラル・アーツ方式を採用し、学部、学科を置かずに教養、専門の学科目から自由に選択履修できるようにしていた。しかし、文部省から、「大学の在り方として、学部をぜひ設けなければならない」との指摘があり、西南学院大学学芸学部として申請した。学部内の専攻の内訳は、神学、英文学、経済学、商学であった。その後、文部省大学設置委員会による書類審査と実地調査の結果、商経関係の教員、特に経済学の分野で教授陣が不足しているとの指摘があった。そこで、経済学は断念して、商学に経済学を含めることにした。最終的に入学定員を神学専攻10人、英文学専攻40人、商学専攻80人とし、総入学定員130人、総収容定員520人として再申請を行い、1949年3月認可された。初代学長は、ギャロット院長が兼任した。なお、同時期に認可された全国の新制大学は、94校（国立69校、公立4校、私立21校）であった。

西南学院大学は、1949年5月11日の創立記念式後、1、2年の入学者239人（神学専攻4人、英文学専攻75人・商学専攻160人）の入学式を、26日に開学式を行った。なお、専門学校第二部（夜間）は、1950年4月に短期大学部となった。

「『西南学院百年史』刊行記念－『百年史』編纂で発見された史実」

西南学院は、創立100周年事業の一つとして、『西南学院百年史』を、2019年3月に刊行しました。2005年から開始した『百年史』の編纂は、1986年に刊行した『西南学院七十年史』後の30年間の歴史を単に加えるものではなく、新たな視点で取り組みました。

資料も第1次資料だけでなく、国立公文書館から西南学院関連の資料を多く集めました。さらに、『七十年史』ではほとんどなかった、宣教師関連の英文資料を米国南部バプテスト歴史古文書館などから入手しました。今回、『百年史』の編纂作業において、新たに見つかった史実を明らかにします。

2019年
3月1日金～5月18日土
入場無料
会場／西南学院百年館（松緑館）1階 企画展示室
時間／9:00～17:00（最終入室は16:30）
休館日／日曜日
主催／西南学院史資料センター

